

会 報 <<第423号>>



次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会

令和3年1月1日

<<目 次>>

- | | | | | |
|-----|-------------|-----|---|-----------|
| I | 新年ご挨拶 | 会 長 | 山 本 康一郎 | ・・・2頁 |
| II | 新春メッセージ | | 「危機を乗り越え、ポストコロナの新時代に挑む」
兵庫県知事 井戸敏三 | ・・・3頁 |
| III | 新年ご挨拶 | 役 員 | 一 同 | ・・・4頁 |
| IV | 会員寄稿 | | 「健康診断を10倍楽しむ方法」
(株)岡工務店 取締役副社長 岡 澄彦氏(当会理事) | ・・・5頁 |
| V | 特別寄稿 | | 「出会いGO！HYOGO！」
公益財団法人 兵庫県青少年本部 理事長 梅谷 順子氏 | ・・・7頁 |
| VI | お知らせ・広報コーナー | | 行事予定、編集後記
ひょうごスタイル、住宅再建共済制度、住宅瑕疵担保責任保険 | ・・・8頁～11頁 |

謹 賀 新 年





新 年 ご 挨拶

一般社団法人 兵庫県建築会

会 長 山本 康一郎

明けましておめでとうございます。

兵庫県建築会会員並びに関係団体の皆様におかれましては、益々のご発展、ご活躍の様子、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、世界中がコロナに始まり、コロナに明け暮れました。残念ながら新型コロナウイルスの収束は今年に持ち越されました。これまでの間、医療従事者の皆様におかれましては不眠不休のご努力に、心より感謝を申し上げます。

さて、当会は昨年通常総会での役員改選により新体制が発足しました。しかし、コロナ禍での活動は多くの制約を受け、従来のように充実した事業ができず各事業の中止、延期を余儀なくされています。今しばらくの間、会員の皆様のご理解をお願いする次第であります。

我々はコロナ感染予防としてのマスク着用は勿論、不要不急の外出を控え、3密を避ける意識は浸透しています。しかし、11月中旬以降、兵庫県ではコロナ第3波による感染者数が著しく増加しています。県独自の警戒レベルは「拡大特別期」に引き上げられ、医療体制も逼迫し強い警戒感が示されており更なる自粛が求められています。

当会11月月例会では、奥田和子先生（甲南女子大学名誉教授）をお招きし「コロナ感染対策と災害食の役割」について学びました。他方企業では、急激な環境変化に柔軟に対応するために、事業構造の転換や製品開発を進めており、非接触型サービスへの移行が進みつつあります。一方、我々の建築を取り巻く生業は、コロナ禍といえども全てを非接触サービスで行うことは不可能であります。これからも人々に親しまれ愛される建物は、完成までのプロセスにおいて人と人が交わり知恵を絞り、すべての関係者がより良い建築物を造りたいと願う表現の結集であると考えます。

そして、当会の役割は、建築に携わる人々のヒューマンネットワークを紡ぐことから始まります。ポストコロナ社会でも兵庫県建築業界の精神的柱として、存在し続けることが極めて重要と考えます。そして、近づく創立75周年に向けて、先輩諸兄が築いて来られた「建築文化の継承と発展」を目標とし、高みを目指し活動してまいります。当面の月例会は、ウイズコロナでの開催となりますが、当会らしく多様なテーマで企画してまいりますので、多数のご参加をお待ちしております。

これからも、皆様のなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、コロナウイルスを克服し今年が健やかな年になりますよう、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



《新春メッセージ》

「危機を乗り越え、ポストコロナの新時代に挑む」

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、新型コロナウイルスとの戦いの年でした。しかし、未だ終息にはほど遠い状況です。

一方、コロナ禍は社会を変革する契機ともなりました。県民とともにこの危機を乗り越え、地域創生やデジタル化に力強く取り組み、ポストコロナ社会を先導する活力あふれる兵庫をめざします。令和3年は本格的に歩みを進める年とします。

第1は、新型コロナ対策の充実。自宅療養ゼロを堅持しつつ、入院病床や宿泊療養施設を十分に確保します。マスク着用の徹底、検温の実施、外出抑制、感染リスクの高い施設の利用を控えるなど、家庭、職場、施設へウイルスを持ち込まない地道な取組が何より大切です。一人ひとりの行動が大切な家族や友人、仲間の命を守ることに繋がります。是非、ご協力をお願いします。

第2は、兵庫の元気回復。経済の下支えを図りつつ、スタートアップ拠点を活用した起業・創業の支援、新たなサプライチェーンの構築を後押しします。兵庫と東京を専用回線で結び、情報ネットワークにより東京圏からの企業誘致も促進します。農林水産業のスマート化も急務です。“都市部から地方へ”の潮流を捉え、兵庫への呼び込みを図ります。

第3は、安全安心の基盤強化。コロナ禍でも自然災害は待ってくれません。地震・水害に備える安全な県土づくりを進めます。県民が安心して暮らせる福祉の充実も強化します。

第4は、ポストコロナも見据えた兵庫の未来づくり。「2030年の展望」を具体化する取組を進めるとともに、2050年頃を目標年次とする新ビジョンの策定に向けた検討を加速させます。

我々は、戦災、様々な自然災害など、幾度もの危機を乗り越えてきました。阪神・淡路大震災もそうでした。再び、県民の叡智を結集して、兵庫の新時代をともに築き上げるため、挑戦していこうではありませんか。

コロナ禍を 乗り越えていく 県民の ひたむきな歩み 夢をめざして

迎 春

旧年中は弊会の運営にあたりまして、会員及び関係者の皆様には、
ご高配賜り誠にありがとうございました。

本年も一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年元旦

— 役 員 — 同 —

名誉顧問	竹村 章 瀬戸本 淳	会 長	山本 康一郎	参 与	渡邊 勝幸
		副会長	大木 弘恵 福本 豊 川端 宏幸		木村 光利
顧 問	出野上 聡 根岸 芳之 竹本 明正 松田 隆 宮宅 勇二 柏本 保 山本 亮三 棚田 肇 石田 邦夫	理 事	岡 澄彦 松本 章 北浪 孝一 矢間 照人 河野 潤也 浜田 洋光 宮崎 健一 吉本 義幸 山田 聖一 立花 充	幹 事	田元 保雄 瀬尾 武夫 前川 真一郎 池内 修 谷口 正樹 吉川 壽一 坂井 豊 荒木 隆一 長坂 浩 杉田 健一 安田 宏

IV 会 員 寄 稿 『健康診断を10倍楽しむ方法』

(株) 岡工務店
取締役副社長 岡 澄彦 (当会理事)

序

私が健康について話をするなど、誰が思ったことだろうか。もっと模範的な適任者がいるのに・・・と眉をひそめれるところだが、しばしお付き合い願いたい。

40代の頃の私といえば不健康の象徴そのものだった。食べただけ食べて飲みただけ飲む。かかりつけ医の薬は服用するけれども、薬さえ飲めば、不摂生して大丈夫とさえ思っていたようだ。

それも無理が効かなくなると思ったのが50歳になって、左目の飛蚊症にかかった時だ。因果さえ分かっていたら必要以上に恐れなくてよいが、かつて経験したことのない怖さを思うと、自らの中で年相応にガタがきていることを素直に認めざるを得なかった。因みに体重はその頃ピークを極めており、社外でも「その肥え方は健康に悪い」と苦言を呈す人もいた。

51歳を迎える年初に、軽度であったが腸の憩室が炎症を起こした。自ら憩室の存在自体に初めて気づいたが、高血圧、逆流性食道炎(胃がヘルニアを起こしていた為)の薬を服用している自らがようやく「健康でありたい」ことを真剣に思うようになった。さらに膝関節に痛みが出た。初めて関節に注射を打つことになる。

減量開始

かかりつけ内科からは「20キロ減らさないと、変形した胃は戻らないよ。」と言われていた。20キロ減量は高い志だが、本当にまず5キロ落とさなければ膝が辛くてたまらない。膝には3倍の荷重がかかるから15キロ分、膝への負担になっている。膝の痛みから逃れたい一心で3か月で5キロ落とした。時期が冬から春ということもあり取り組みやすかった。会合がない日の昼は毎日抜いた(つまり、一人ならば昼は毎日断食・2020年9月現在も継続中)。イスラム教に宗旨替えをしたのではない。一日2食だからといって夜にドカ食いすることも慎んだ。

就寝2時間前以内は食べないことを基本とし、自宅で食べるときは「まごはやさしいよ」(豆、ゴマ、わかめ等海藻、野菜、さかな、椎茸等きのこ、いも、ヨーグルトの頭文字を示す)の摂取を実践した。極力35回噛んで味わうようにした。17か月经つた現在も実践していることである。食事は減り、

成果が数値に現れだすと楽しくなる。通勤以外で毎日5,000歩を歩く目標にした。体重が減れば動くのも楽になる。

先述の飛蚊症で悩んでいたのが目の神様である、京都伏見稲荷を登り詰めた山の上にある眼力社へ自ら参拝したのもこの時だ。以前なら、ケーブルも索道もないような山へ登ることなど考えもしなかったが、何かにすがりたい気持ちと、健康に自信を持ちたいという思いから、眼力社まで登れた時は心の底から喜んだ。

かくして、開始から半年で7キロ落とすまでの道のりは順調だった。膝関節の注射も卒業した。

高鉄棒との出会い

梅雨は私には最も苦手な季節だが、温暖化で全国どこへ行っても高温多湿から逃れることはできない。飛蚊症発症から1年。今度はどこが不調を言い出すのか。梅雨が明けるころ腸腰筋の痛みをぶり返した。忘れていただけなのかもしれない、膝が痛かった時期に痛みを感じていた腸腰筋であった。太っていたら「病気が病気を連れてくる」という、いつの日か親に言われたことを痛切に思い出した。痛みを軽快させるため、もがくように試したが、ここで役に立ったのが高鉄棒の懸垂である。

昭和の時代、どこの児童公園にも当たり前に設置されていた高鉄棒も現代ではなぜか探すのにひと苦労である。歩数を稼ぐのにちょうどよい距離に高鉄棒をみつけたので、毎日懸垂しに歩くことが日課となった。「ぶら下がり健康器を買えばいいじゃないか。」という声もあったが、ここまで長く続けられると当初思ってもみなかったので、三日坊主で用済みの大きな物干竿が、ひと部屋占有するなどまっぴらだと、家人から猛反対された。確かに会社の安全総会での記念品の家電製品の類はたちまち場所ばかり食って、「資源ごみ」になっているのが末路である。閑話休題。

鉄棒を求めて毎日歩けるのだから確かに好都合だ。私にとって鉄棒効果は絶大で、続けているうちに腸腰筋の痛みを忘れるまでになった。その間も減量は続けていたので10キロ減で酷暑を迎える事になったが、目方が落ちるだけで、ここまで自分が楽なのかということを感じた。

会社の健康診断

社の健診は9月にある。私は毎年行くのが嫌だった。時期的に株主総会の直前だから、精神的にいい数値のはずがない。第一、採血時の止血など、粗末に扱われ、医者からのアドバイスらしいものもないからだ。測り方に問題はあろうし、昼一番に測ってい

い結果であるはずなどなかったのだが、51歳のこの年はやる気十分で臨んだ。3か月おきにかかりつけ医で血液検査をして腫瘍マーカーまで確認しているので、検査慣れしていたこともあるのだろう。少々健康診断の数字で脅されたところで、裏は取れているから怖くない。その日の数値は数値！ぐらいの気持ちで臨んだ。いつもだと、体重、血圧、中性脂肪、 γ GTPの数値がいやだから(認めたくないから)、行きたくないという気持ちになっていた。

体重計に乗ってみた。服を着て量るのだから2キロ損した気持ちになるので、身ぐるみは出せる限り取り出して、隣の籠に置くのだが、体重計から看護師がなかなか降ろしてくれない。社の従業員の待合のような位置に計測器があるので、「みっともない」と思っていたら一年間の大病の有無を尋ねられる。「どうした？」と思ったら、前年比5キロ以上落ちた人にはそのように尋ねるのだとか。

来年も尋ねられるように減量しようと、闘志は燃えた。血圧も待合のような位置で測られるので気が散って、平常心で臨めるはずがなかったがそれでも、落ちた体重 \times 1.2倍ぐらいの数値が下がっていたから驚いた。

3週間ほどで検査結果が届くが、中性脂肪 γ GTPも前年の半分以上に下がっていたから、肥満が病気を連れてくるというのは本当だ。数字が如実に語っている。ひと夏の努力が報われた気にもなった。

諦めない、目的完遂の日までは

もともと酒席は、その雰囲気が好きなのであってアルコール飲料を好んで摂取していたわけではない。言い換えれば、酒なしの焼き鳥屋だろうが、おでん屋だろうが私には清涼飲料水で十分、2~3時間の「間」がもち、酒飲みの相手も全然苦にはならない。

50歳を機に不急(公用・業務以外)の飲酒はやめた。酒席の多い師走には開始から小一年で14キロ減にまで達した。大型連休が訪れたらつい気が緩むものだが、(この年は曜日の関係で)長い正月休みで頭はボケても、体重は緩まなかった。平常時と変わらぬ食生活を続けていた。

しかし私にとって年間において減量がお留守になる時期がある。1月末から2月末である。その期間での小さな反動(減速)も想定に入れてだが、3月は胃カメラを受診する時期なので気を引き締めて元のパターンへ戻し、4月には自主的に人間ドック(バリウム)を受診した。再び13キロ減の水準を推移するようになり、5月時点では15キロ減を示した。

世間では巣ごもり生活でコロナ太りになった人も

多いというが、私の生活パターンはコロナ非常宣言下も平時とさして変わるものではなかった。人との接触が無くなっていたことには閉口したが、酒席が無くなって別に困ることはなかった。

「目標は？」と人にきかれたら、今もなお「20キロ」と初志を貫いている。ただ減量にもサイクルがあり、どんなに昼を抜いて頑張っても落ちない時期は本当に落ちないが、波に乗ると落ち始めるという周期がある。その周期と付き合いながら、20キロ到達はいつになることか。

猛省の日々と、青汁と

まずいものが好きな人などいないだろう。減量後初の人間ドック受診後と時を同じく、老眼を自覚するようになり、かつてなかった疲れ目を感じるようになっていた。

コロナ禍での人間隔離・何でもかんでもリモートの背景では、眼精疲労の人は多いという。そこで目覚めたのが青汁である。昔のとは違って現代版は飲みやすく、決して不味いものの代名詞ではない。それも従来の粉末でなく既成のものが各メーカーから選べるようになってきている。900mm程度のペットボトル製品を冷蔵庫に入れておけば私の場合、大体二日で水代わりに飲み干している。

おかげで今ではどこの製品か「効き青汁」できるまでになった。

私にとって、ゴールとは

ゴールは、ここからの人生における健康年齢の維持にある。20キロ減がゴールではない。当たり前前のレベルに体を戻す。むしろ、これから生きていくためのスタートラインである。

私の祖父(岡工務店の創業者)が世を去ったのが56歳の時であった。尤も、現代でいう70歳ぐらいに相当するから数字の持つ意味合いは、現代のその数字とは全く違う。「げん担ぎ」でないが、56を超すまで特に健康維持に対して慎重にしていたくなる。50歳を過ぎた者が二人寄れば飲んでる薬の話。三人寄れば既往症の話。というが、その意味が近年になって身をもってわかるようになった。

この先も、年齢相応に病気やストレスと付き合いながら、健康状態を保てることに感謝をして生きていきたい。

是正前・是正後の自分の腹部の証拠写真は掲載しませんが、ご覧になりたい方は個別にどうぞ。

V 特別寄稿
『出会いへGO!HYOGO!』
公益財団法人兵庫県青少年本部
理事長 梅谷 順子

兵庫県では、少子化の大きな要因とされる「未婚化・晩婚化」への対策として、平成18年6月に公財団法人兵庫県青少年本部に「ひょうご出会いサポートセンター」を設置しました。

県内10カ所の「地域出会いサポートセンター」と「ひょうご出会いサポート東京センター」で、婚を希望する独身男女に出会いの場を提供しています。

まず、個別お見合い紹介事業「ひょうご結びプロジェクト」では、年間5,000円(20代3,000円)で「はばたん会員」に登録できます。令和2年7月7日には、ご自身のスマートフォンで自宅に居ながら24時間いつでもお相手探しができる「スマホ婚活」をスタートしました。

さらに、令和3年1月からは、「複数お見合い」や「センター以外の場所でのお見合い」が行えるようシステムを改修し、お相手探しがますます便利になります。



次に、出会いイベント事業です。イベント参加で気軽に婚活を始めたい方は、無料の「あいサポ会員」に登録ください。あいサポ応援団(協賛団体)が主催する出会いイベントに参加できます。

このほか、出会いの機会が少ない女性専門職を対象とした出会いイベントを、令和2年度も20回開催しています。



これらの出会い支援事業を通じて、令和2年10月末までに、1,784組の成婚カップルが誕生しました。

また、令和2年9月2日に、兵庫県と民間婚活事業者3社が、結婚支援に係る連携協力協定を締結しました。

具体的には、協定事業者主催イベントへの当センター会員の参加や、協定事業者のノウハウを学ぶ研修の実施など、連携協定を活かした様々な取組を進めていきます。

令和2年9月29日には、スマートフォンでも快適にご覧いただけるように、ホームページをリニューアルしました。

トップページに「イベントカレンダー」を新たに設け、県や市町等の婚活イベントやセミナーの開催情報をご案内しています。

ぜひ一度ご覧になっていただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症で不安の多い毎日ですが、安全・安心な婚活により、多くの方々が、理想のお相手とめぐり合い、結婚し、幸せになっていただければと考えています。

<お問い合わせ>ひょうご出会いサポートセンター(兵庫県青少年本部内)
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3 兵庫県民会館3階
TEL 078-891-7415
URL <https://www.msc-hyogo.jp/>



VI お知らせ

◎ 行事予定

1 第489回月例会

日時：令和3年2月3日（水）
13：00～14：00
場所：東急REI ホテル
演題：「建築物、内装のデザインが意匠権
の保護対象に加えられました！」
講師：有古特許事務所
弁理士 市川 友啓 氏

2 第490回月例会

日時：令和3年3月11日（木）
13：00～14：00
場所：東急REI ホテル
演題：「永久に母なる山 摩耶山」
～神戸に遺る空海の足跡～
講師：摩耶山天上寺
副管主 伊藤 浄真 氏

3 令和2年度第6回理事会

日時：令和3年3月25日（木）
13：00～14：00
場所：東急REI ホテル

*なお、先にお知らせしましたように、恒例の新春交流会は新型コロナウイルスの感染拡大が第3波を迎え、社会情勢等が非常に厳しい状況に鑑み、残念ながら中止となりました。



《編集後記》

あけまして、おめでとうございます。
昨年は月例会の実施、会報発行等にご協力をいただき誠にありがとうございました。

昨年4月から事務局長として着任しましたが不慣れなことが多く、会員の皆様にはいろいろとご迷惑をかけてきましたが、なんとか新年迎えることができました。

今年もよろしく申し上げます。

新型コロナウイルスはますます猛威を奮っています。兵庫県でも連日三桁の感染者で死者数もかなり増えてきている状況です。

所謂第3波といわれるものが私たちの身近に迫ってきているようで、目に見えない敵に怯えている日常となっています。

朗報としては、ようやくワクチン接種が欧州、アメリカなどで始まりました。

日本では独自の治験を行い春頃に接種が始まるそうです。副作用のことが取り沙汰されていますが、まず一步前進だと思います。

ただ、治療薬の方はまだ時間がかかるようなのが心配です。

本会事業も、コロナ禍のおかげで、春の総会の延期、6、7月月例会の中止、そして恒例の新春交流会も実施できなくなりました。

着任1年目でこのような状況になってしまいましたが、来年こそは普通の日常が戻り、当会の事業が円滑に執行されることを期待して止みません。

事務局 : 吉本義幸、石井滝実子
電話 : 078-996-2851
FAX : 078-996-2852
Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

新型コロナウイルスの感染拡大を予防する 「ひょうごスタイル」

兵庫の新たな生活様式「ひょうごスタイル」を取り入れ
新型コロナウイルス感染拡大予防にご協力をお願いします

I 感染拡大を予防する「日常生活」(ライフスタイル)

1 ウイルスとの共存を意識した生活習慣

- (1)「3密」(密閉・密集・密接)の回避
- (2)身体的距離(ソーシャルディスタンス)の確保(できるだけ2m。最低1m)
- (3)マスクの着用(※)、咳エチケットの徹底
- (4)手洗い・手指消毒(手洗いは30秒程度、石けん・消毒薬の利用)
- (5)体温測定・健康チェック(熱や風邪の症状がある時は自宅で療養)
- (6)発症時やクラスター発生時に備え、いつ誰とどこで会ったかを記録



※熱中症リスクを考慮し、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合は、マスクをはずす。

2 日常生活の各場面別の行動スタイル

(1) 買い物	<input type="checkbox"/> 通販、電子決済の利用 <input type="checkbox"/> 展示品への接触は控える <input type="checkbox"/> レジに並ぶときは、前後にスペース <input type="checkbox"/> 計画を立て、1人又は少人数ですいた時間に素早く済ます
(2) 公共交通機関	<input type="checkbox"/> 会話は控えめに <input type="checkbox"/> 混んでいる時間帯を避ける <input type="checkbox"/> 徒歩や自転車も併用する
(3) 食事	<input type="checkbox"/> 持ち帰りや出前、デリバリーも利用 <input type="checkbox"/> お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避ける <input type="checkbox"/> 対面ではなく、横並びで座る <input type="checkbox"/> 会話は控えめに <input type="checkbox"/> 大皿は避け、料理は個々に
(4) 娯楽・スポーツ等	<input type="checkbox"/> 公園はすいている時間、場所を選ぶ <input type="checkbox"/> 筋トレやヨガは自宅で動画を活用 <input type="checkbox"/> ジョギングは少人数で <input type="checkbox"/> すれ違うときは距離をとる <input type="checkbox"/> 予約制を利用する <input type="checkbox"/> 歌や応援は、十分な距離の確保かオンラインで
(5) 冠婚葬祭等	<input type="checkbox"/> 多人数での会食は避ける <input type="checkbox"/> 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

II 感染拡大を予防する「働き方」(ワークスタイル)

- 在宅勤務(テレワーク)、ローテーション勤務、時差出勤の推進 会議はオンラインで
- 対面での打合せは換気とマスクを 発熱など体調不良の従業員の出勤を停止 職場での「3密」防止

III 自然災害と感染症との「複合災害」への備え(災害文化)

1 「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営ガイドライン」の活用

2 複合災害に対応するための事前準備

- ・ 自然災害と感染症との「複合災害」に備え、避難場所・避難所の確認や避難所での対応等について、事前に準備
- ・ 避難判断にあたっては、「マイ避難カード」や「ひょうご防災ネット」アプリを活用

安心をカタチに

兵庫県住宅再建 共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した 住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ!**

<p>県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に</p> <p>住宅再建共済</p> <p>年額5,000円で 再建、補修時等に 最大600万円給付!</p> <p>※半壊(損害割合 20%)以上</p>	<p>一部損壊特約</p> <p>プラス</p> <p>年額500円で 補修時等に 25万円給付!</p> <p>※損害割合10%以上20%未満</p>	<p>県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に</p> <p>家財再建共済</p> <p>単独加入 年額1,500円で 住宅とセット加入の場合 年額1,000円で 購入・修復時に 最大50万円給付!</p> <p>※床上浸水・半壊以上</p>
---	---	--

※ 住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400**(平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikin@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 *加入申込書はダウンロードできます*



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!

住宅保証機構株式会社 住宅瑕疵担保責任保険「まもりすまい保険」

- ① 当センターで「兵庫すまいづくりクラブ」に入会・保険申込いただくと、住宅保証機構株式会社認定団体である「関西すまいづくり協議会」団体割引制度が利用可能。
※本団体が定める品質管理基準に適合が条件
- ② 共同住宅大規模物件割引：1住棟の保険申込数が20戸以上の場合、全住戸に対する保険料が割引。
- ③ WEB申込で「オンラインサービス」申込利用割引。



詳しくは <https://www.mamoris.jp/>

お見積り、お問い合わせは

(公財) 兵庫県住宅建築総合センター

〒651-0088 神戸市中央区小野柄通7丁目1番1号 (日本生命三宮駅前ビル7階)

TEL078-252-0092 fax078-252-0096

